翔生（しょうせい）

Symbol Logomark　これまで各地商工会議所で使用されている商工会議所マークの下に、ゴシック体でデザインしたシンプルで馴染み易いロゴマークとなっています。ロゴは、商工会議所青年部の英語名（Young Entrepreneurs Group）の頭文字をとったものですが、同時に商工会議所青年部の持つコンセプト（若さ、情熱、広い視野をもった経営者＝Youth, Energy, Generalist）を表しています。

発行　全国商工会議所青年部連合会
東京都千代田区丸の内3-2-2
日本商工会議所中小企業振興部内
☎03-3283-7847
編集　広報委員会

平成6年（1994年）
11月1日号
通巻　第17号
（年2回　5月・11月発行）

第14回　商工会議所青年部全国大会〈長崎大会〉

人が接点、地域が原点、ふれあい長崎見聞学。

大会会長　松　田　祥　吾

「明日への創造　地域に挑むYEG」の統一スローガンのもと平成6年度第14回商工会議所青年部全国大会・長崎大会を長崎県商工会議所青年部連合会の主管にて長崎市にて開催させていただきます。

日本列島の最西端に位置する長崎は古くから大陸文化との交流窓口として重要な役割を演じて参りました。出島をはじめ多くの人々がそこで出会いそしてふれあいが生まれてきました。

「人が接点、地域が原点ふれあい長崎見聞学」の開催地キャッチフレーズはそんな長崎の歴史的背景をふまえながら新しい時代への交流の足がかりを模索し地域社会へ青年経済人としての提言を促し国際観光の探人達と情報を長崎で少しでも見聞を広げていただきたいという思いをこめたものです。

大会成功を誓い合う、松田祥吾大会会長と前田茂大会実行委員長

大会初日11月24日はYEG親睦ゴルフコンペ、拡大役員会・前泊者懇親会。大会二日目11月25日は西青連協会議、体験的スケールの[illegible]をはじめ[illegible]長崎三菱造船所の企業見学、日本を代表するテーマパーク「ハウステンボス」の社長神近義邦氏による「ハウステンボスのアジア戦略」と題した記念講演、そして経済団体であるYEGの全国的ネットワークを利用した商談会、カタログ配布、見本品配布など自社の企業活動に役立つビジネス交流プラザ、また懇親会では「異国情緒のふれあい」「心のこもったおもてなし」を基本コンセプトに和・華・蘭に代表されるチャンポン文化ともいわれる独自の食文化を存分にご賞味いただき、アトラクションには長崎くんちでも有名な「龍踊り」をご披露しお楽しみいただきます。

大会三日目11月26日は日本商工会議所会頭稲葉興作氏からの貴重なご講演をはじめとする式典が催され、その後は県内各地へのエクスカーションへと研修の輪を広げていただきます。

今大会へご参加いただける皆様方を快くお迎えすべく、長崎県連メンバー一丸となって着々と準備を進めております。

異国文化の交流の長崎において第14回YEG全国大会。

皆様方のお越しを心よりお待ち申し上げております。

第14回商工会議所青年部全国大会

- 主催／全国商工会議所青年部連合会
　　　日本商工会議所
- 主管／長崎県商工会議所青年部連合会
- 開催地青年部／長崎商工会議所青年部

ごあいさつ

全国商工会議所青年部連合会
会長　佐藤善三郎

7月、伊万里から始まり、安芸、小山、伊勢、亀田、根室、田辺、柳井、山形と全国を九つにわけて行われたブロック大会は、運営研究会からブロック大会と名称を変更し、YEGとしてのビジョンや道府県連、ブロックのあり方を語らい、交流と連携を深め、有意義ある大会としていただきました。主管していただいた各地YEGの皆様に紙面をお借りし感謝申し上げます。ありがとうございました。

さて、このブロック大会の集大成ともなる全国大会は今後のYEG活動の基盤となる重要な大会であります。

「明日への創造　地域に挑むYEG」のスローガンを掲げて、創造性、独創性を持って地域に挑んでいこうと活動してきました本年度、本大会に多くの方々にご参加いただき、語り合い、刺激し合い、より強固なネットワークを築き、さらにそれを経済団体としてビジネスネットワークへと発展させていこうではありませんか。

この大会が明日への創造の場となることを確信しております。全国のYEGの皆様、長崎でお会いできるのを楽しみにしております。

第14回 商工会議所青年部全国大会（長崎大会）スケジュール

11/24 Thursday

- YEG親睦ゴルフコンペ
  9:30～16:00　大村湾カントリー倶楽部
- 西青連拡大役員会・前泊者懇親会
  19:00～21:00　ホテルニュー長崎
- ゴルフ表彰式
  19:00～21:00　ホテルニュー長崎

11/25 Friday

- 西青連協会議
  9:30～12:30　ホテルニュー長崎
- 登録受付
  12:00～18:00　長崎県立総合体育館
- ビジネス交流プラザ
  12:00～20:00　長崎県立総合体育館
- 企業見学
  13:30～16:00　三菱重工業[illegible]
- OBサロン
  15:00～18:00　長崎県立総合体育館
- 会員総会
  16:30～18:20　長崎県立総合体育館
- 記念講演
  16:30～18:00　長崎県立総合体育館
  講師：ハウステンボス㈱ 代表取締役社長 神近義邦氏
  演題：ハウステンボスのアジア戦略

- 懇親会
  18:30～19:45　長崎県立総合体育館

11/26 Saturday

- 登録受付
  9:00～9:30　長崎県立総合体育館
- 記念式典
  9:30～11:30　長崎県立総合体育館
  1. 開会宣言
  2. 「君が代」斉唱
  3. 「商工会議所青年部の歌」斉唱
  4. 商工会議所青年部「綱領」朗読「指針」唱和
  5. 全国商工会議所青年部連合会会長挨拶
  6. 日本商工会議所会頭挨拶
  7. 長崎県商工会議所青年部連合会会長挨拶
  8. 長崎県商工会議所連合会会長挨拶
  9. 主催者紹介
  10. 来賓祝辞
  11. 来賓紹介
  12. 祝電披露
  13. 講演
      日本商工会議所
      会頭　稲葉興作氏
  14. 参加青年部紹介
  15. 次年度全国商工会議所青年部連合会会長挨拶
  16. 次年度全国大会開催地発表
  17. 閉会宣言

- エクスカーション

日本を縦断、YEGの 熱き"連携軸"
全国でブロック大会を開催

7月に九州でスタートした全国商工会議所青年部連合会のブロック大会は、東北で幕を閉じました。この2カ月間各地で若き企業家集団が集い、明日の地域社会について話し合いました。そして誓い合いました。「YEGこそが、真の地域の担い手に」と。

北海道ブロック ●根室大会
北方領土問題を討議

商工会議所青年部北海道ブロック大会が根室青年部の主管により9月21日に開催された。大会には各単会会員約200名が出席、又、今年青年部設立が予定されている釧路商工会議所からも出席いただいた。

研修会では、佐藤貴三郎会長の基調講演の後、パネルディスカッションを行い、佐藤会長からの要請により、開催地である根室市の最大の問題である北方領土問題とロシアとの交流の現状について、根室青年部阿部副会長から、北方領土問題の歴史や四島島民とのビザなし交流が始まった経緯等について説明がなされた。その後の意見交換では会場からも活発な発言があり、地域間、商工会議所間の連携の必要性が確認された。

又、根室青年部は「根室アピール」を発表、地元としての意見発信が行われた。

講演会にはTBS秋山豊寛氏を講師に迎え、旧ソ連の宇宙船に乗船した体験を踏まえた講演をいただき、翌日はビザなし交流専用船「コーラルホワイト号」による北方領土沖上視察を実施、地域の特性を生かした大会との評価をいただいた。

東北ブロック ●山形大会
分科会で全員が発言

10月15日山形市「山形国際交流プラザ」において、「第13回商工会議所青年部東北ブロック大会山形大会」が開催されました。

当日は秋晴れの爽やかな天候に恵まれ、東北各県から500名を越す会員が参加。山形の秋の風物詩である「いも煮」の昼食後、式典・分科会・全体会議・YEGミニメッセ・懇親会等がとどこおりなく進ばれました。

参加者全員が発言できる場を設けようと座談を中心に小人数で行われた分科会、会員の皆様の地域PR、企業PR、ビジネスコミュニケーションの場として提供するYEGミニメッセなど、東北ブロック大会としてはいくつかの初の試みにチャレンジ。特に分科会においては、「おこそう行動YEG～交流そして連携へ～」の統一テーマのもと、7分科会、7会場で活発な論議が展開され、非常に有意義なものとなりました。

また、日本の秋を感じさせる月も見目麗しい「かぐや姫」をコンセプトとした懇親会も、会場入口など随所に竹をディスプレイ、オープニングでは暗転した会場に横笛が流れ、同時に十二単に身を包んだかぐや姫が竹やぶから登場するなど、凝った演出に会場から拍手、歓声が起こりました。

懇親会後半には、長崎YEGより全国大会PR、宮崎YEGより中央研修会、八戸YEGより次回東北ブロック大会PRが行われ、全会員が再会を誓い、閉幕しました。

北陸信越ブロック ●亀田大会
白熱の討論、時間が不足するほど

第14回商工会議所青年部北陸信越ブロック大会は、9月17日亀田商工会議所青年部主管により総勢438名で亀田町町民会館・亀田町公民館で開催されました。

「明日への創造 地域に挑むYEG」をスローガンに3つの分科会に分かれ、第1分科会は「起こそう行動YEG」、第2分科会は「地域活性と祭り」、第3分科会は「青空バザール7年間の歩み」をテーマに各々思い思いの考えをぶつけ合い、持ち時間が不足する程、激しいディスカッションをかわしました。

全体会議では、商青連佐藤会長、日商稲葉会頭（代理）、亀田阿部会頭より挨拶を頂き、来賓の各界代表の方々より青年部のより充実した活動に期待を寄せる祝辞を頂きました。

記念講演では、山本晋也監督を招き、「レンズの中から見た現代社会」をテーマに性風俗を通しての人間像をユーモアたっぷりにお話しして頂きました。

懇親会は、会場を移動し新潟市内のホテルで行い、平山征夫新潟県知事より挨拶を頂き地元の幻の銘酒と美味しい料理とさらに新潟美人のお酌で夢みる様な時間を満喫しました。懇親会も滞りなくおわり、各々夜の「新潟古町」のネオン街に姿を消し無事日程を終了いたしました。

東海ブロック ●伊勢大会
「伊勢アマテラス物語」に感動

9月9日東海ブロック大会当日、20年に一度の遷宮を終え生まれ変わった伊勢神宮のお膝元に遠く近くから集まった東海三県を中心とする青年部の皆さん、前夜の疲れもみせず元気に集ったお昼、いよいよ開会です。

オープニングは今大会のサブタイトルともなった天の岩戸の故事に拘った寸劇、プロローグ「アマテラス物語」。激動の時代を魅る場としたい、という伊勢のメンバーの大会にかける思いを集約したものです。

以降「参加型」をコンセプトに青年部メンバーからご来賓まで、傍聴者としてではなく出席者として参加頂きたい、と用意したプログラムに沿って「全体会議」・「分科会」・「懇親会」と9月とはいえ強い陽射しの中、汗をたっぷりかいて東海ブロックの一日はアッという間に過ぎていきました。

伊勢のメンバーには冷や汗ばかりの一日でしたが、お帰り時の参加者の笑顔でこれまでの苦労をすべて「遷宮祭」という絆に昇華させて頂けました。参加いただいた青年部メンバーにはどんな汗でしたでしょうか？機会がありましたらお聞かせ下さい。

では、また来年度、瀬戸でお会いしましょう。

関東ブロック ●小山大会
時代は今日（いま）―小山から変わる

平成6年度「第14回商工会議所青年部関東ブロック大会小山大会」を、「平成の決断、小山評定」「時代は今日―小山から変わる」のサブタイトルのもと、千百余名の参加者で、去る9月2日・3日当市に於いて開催させて戴きました。

会場内は熱気でむせ、広場に係留した熱気球（全日本グランプリ第2戦に参加）の出す赤い炎は、まるで燃えたぎる熱い血潮のようでした。

式典は小山評定を再現し、厳かな雰囲気に包まれ、最後の白拍子の優美な舞に、感動の拍手の嵐の中無事に終了しました。

第2部の記念講演には地元白鴎大学法学部教授の福岡政行氏が『今後の政局と日本経済の展望』のテーマで講演、時節柄興味のある話が拝聴できました。

分科会は『おこそう行動YEG』が統一テーマの佐藤会長の基調講演、沼津・前橋・古河の各YEG事例発表の第1分科会と、KDD視察や東邦生命社長太田清蔵氏・民俗研究家尾島利雄氏の講演等があり、その後の懇親会では、和気あいあいと各青年部との交流が深められました。

翌日のエキスカーション『神鳥谷カントリーゴルフコンペ』には地元市長も参加し、大いに盛り上がりました。

中国ブロック ●柳井大会
青年市長、熱っぽく語る

10月7・8日の両日、第12回商工会議所青年部中国ブロック大会を山口県柳井市に於いて柳井商工会議所青年部の主管で開催された。大会の行われた2日間は晴天にも恵まれ、中国5県を中心に約500名の青年部会員が参加した。

大会1日目は、エクスカーションを中心に、柳井カントリー倶楽部に於いて親睦ゴルフ大会（74名参加）、大島瀬戸の鯛釣り（14名参加）を行い、夕方4時からは柳井クルーズホテルに於いて、国土庁計画調整局総合交通課長・大石久和氏による特別講演会を「地域連携構想・地域の自立と責任」と題して行った。その後約150名が参加して行われた前夜祭の中で、ゴルフ大会の表彰と鯛釣りの釣果報告会を行った。

2日目は、サンビームやないで、早朝より会長会議が開催され、その後続々と会員が集い、中国ブロック大会式典が始まった。式典では、主催者を代表して佐藤貴三郎日商青連会長、日商藤井三郎副会頭のあいさつ、開催地商工会議所を代表して藤井会頭と主管青年部より藤田理夫会長の歓迎あいさつ、来賓を代表して平井龍山口県知事、河内山哲朗柳井市長のご祝辞をいただいた。

引き続き会場を一般公開にし、野田国義・八女市長、志々田浩太郎・武蔵村山市長、河内山哲朗・柳井市長をお招きして、全国で1番～3番目の青年市長による記念講演を開催した。記念講演は「青年市長の挑戦」と題し、座談会形式で地方分権、地方自治について熱っぽくお話しいただいた。

午後からは、佐藤日商青連会長を議長に「おこそう行動YEG」と銘打って積極的な青年部活動について話し合う第1分科会と、東京オリンピック・女子バレーボール金メダリストの井戸川絹子さんを講師に「東洋の魔女に見る人間関係」の演題にてご講演いただいた第2分科会を行った。その後、全体会議を行い分科会報告や全国大会「長崎」と、次回開催地「出雲」のPRを行った。

最後は2日間の大会の疲れをいやすべく、会場をアニバーサリーステージベルに移動して大懇親会を開催した。芸術あり、お色気有りのアトラクションに会場を埋め尽くした皆さんにも楽しんで頂くことができました。

近畿ブロック ●田辺大会
会場に響く「弁慶鬼若太鼓」

第17回商工会議所青年部近畿ブロック大会を、台風一過の9月30日と10月1日、和歌山県田辺市において盛大に開催、お互いの交流と友好を深めた。

初日は、南方熊楠を中心とした大懇親会を開き、田辺YEGの運営する女性による太鼓「弁慶鬼若太鼓」の演奏や和歌山県下の名産品の抽選会などを楽しんだ。

メインとなる2日目は、南方熊楠や町おこしをテーマとした3つの分科会を行い、引き続いて、仮谷志良県知事（代理中山次郎副知事）、脇中孝田辺市長、山名文雄田辺商工会議所会頭などを来賓に招き記念式典を開催した。式典においては次回開催地として大阪府・高石YEGが発表され、高石メンバーから関西空港を中心とした内容の紹介があり、全員の来年の高石での再会を約束した。また、長崎YEGメンバーによる全国大会のPRもにぎやかに行われた。

午後には、人気急上昇中のテレビキャスター若林正人氏が「国際化の時代に豊かに生きるとは」をテーマとする記念講演を行い、衛星中継で会場を沸かせ、長年にわたる海外生活での豊かな経験に基づく日本人と欧米人の倫理観の違いなどについて論じた。

九州ブロック ●伊万里大会
「古伊萬里ロマンで大交流」

第14回商工会議所青年部九州ブロック大会は、7月22日（金）～23日（土）の両日古伊萬里ロマン漂う佐賀県伊万里市で開催されました。大会当日は記録的な猛暑の中、全国各地の理事の方々にもご参加頂き、76単会1017名の登録を得、商青連佐藤会長の「地域を原点に起業家精神で活動を！」との挨拶で幕を開けました。

式典後は4つの分科会に分かれ、青年部活動の在り方や地域活性化についてのテーマ別研修、伊万里焼窯元の視察など熱心な研修が行われた後、夜の懇親会へと移りました。

大会の成功を左右する？大懇親会では、長崎の蛇踊りや次年度開催地の親子太鼓等でにぎわい時間を忘れての大交流が展開され、遅くまで伊万里ナイトを満喫頂けた事と思います。

翌23日は全体会議、アーブスペクター氏記念講演を開催後、11月の長崎全国大会と次年度開催地宮崎県串間での再開を約束して閉会いたしました。

今年度よりブロック大会と名称が変更され、又全国のトップを切っての開催に行き届かない点が多々あった事と思いますが、皆様のお陰で無事終了する事が出来ました。

紙面を借りまして御礼申し上げます。

四国ブロック ●安芸大会
100%設置の記念大会

四国ブロック大会は8月25日から、27日まで高知県安芸市で開催されましたが、島外からも多くの登録を戴き心よりお礼申し上げます。特に今年はブロック内商工会議所が100%青年部を設置し、商青連に加入した記念大会として、OB諸兄のご出席もあり、盛大なブロック大会となりました。

四国商工会議所連合会の松本会長、橋本知事のご本人の肉声による祝辞を戴いた事も、大きな喜びでありました。しかし、大会記念ゴルフコンペにおきまして、今治YEGの小島真志君が急死されるという大変不幸な出来事があり、今も心が痛む想いです。小島君は、熱心なメンバーであり、数々の大会に多くの出席をしてくれておりました。

小島君の意志を引き継ぎ、青年部活動をより活発にしていく事が、何よりの供養

した四国ブロックが、他のブロックの亀鑑になるように、模範的な事業展開を行っていく所存です。4月より始まるブロック活動は、ブロック大会全国大会までが表舞台ですが、これから残り半年の裏舞台こそが、充実した活動のプラン、根回しの時期と位置付け、良い状況を作り、次年度に引き継ぎたいと考えております。

「初心者マークを外した2年目」

滝川商工会議所青年部（北海道ブロック）

なんとも早かった1年間、設立してぼんの少しが経ちました。いろんな事業を沢山しました。外部から見るとまだまだなのでしょうが…。とにかく時間が足りないのです。皆、何よりも仕事に頑張ってるから?でも根付いています。確実に。絶対に根付いています。

今、「地生」への掲載にあたり設立後の1年少々を考えています。まだまだ手探りですがなにかを摑みかけています。この10月に初めて対外的にアピールするビックな企画を紹介します。いま各地でブームではありますが、わが滝川において未だ〝地ビール〟の声が上がらざるは残念との思いから「世界のビアフェスタ」を開催いたします。世界のと言うからにはビールを通しての世界交流等と、夢も膨らんでいます。いまプロジェクトチームは超燃焼です。ある意味で真価を問われるかも知れません。ご期待願います。

わが町、滝川は北海道の一級河川「石狩川」と「空知川」の合流する地点です。ここにビール、水、泡のイメージがあります。川の流れのようにという歌もありますが、時に厳しくぶつかり合う水のエネルギーを我々は感じています。まさに川にありです。このイメージをテーマにした豪快な祭りがあります。「しぶき祭り」と言います。今年で10回目の区切りの年でした。いつになく激しく、たくましいものでした。ここに紹介します。

今年は稀に見る大盛暑でした。水を命に考えその激流のごとくエネルギーで立ち向かいます。

まちじゅうおもしろく!

一関商工会議所青年部（東北ブロック）

当青年部は昭和57年7月に設立以来12年が経過し、79名の構成でなる青年部です。平成6年度は企画運営委員会・経営研究委員会・会員強化委員会・夢'21委員会の4委員会を設置し、積極的に活動しております。

また、活性化事業の一つである市民参加の「おもしろ市」も今年で3回目を迎え、「懐かしのシネマ上映」「まちじゅうおもしろラリー」「まちじゅうおもしろ市」「まちじゅうおもしろマップ」の作成等、生産者・商業者・消費者とのお互いの協調・融和・思いやりを育む、楽しい生活の場を創造する事業として盛大に開催したいと思っております。さらには、会員家族交流の一環として地引き網・芋の子会・クリスマス会等の事業も予定しております。本年は、会員組織をさらに拡大強化すべく、会員数100人をめざし会員募集活動を行っているところです。経営の勉強と地域の経済的発展を図るべく、講演会・講習会・移動研修等を精力的に実施し、次代を担う人材育成にと活動を展開しております。

「熱く燃えた夏ー豊田おいでんまつりー」

豊田商工会議所青年部（東海ブロック）

「おいでん、みりん、おどろまい!」のディスコ調の曲に乗せて358の踊り連、2万5千人の市民が踊る「豊田おいでんまつり」の総踊りが7月29、30日に盛大に行われました。

我が青年部も、商工会議所が祭りの実行委員会の一員でもあるので、地域に開かれた事業を全面的にバックアップしようと、毎年張り切って参加しています。今年は踊りコンテストの最優秀賞「おいでん大賞」をめざし春から準備を開始。百日前には神社で必勝祈願、踊り連参加登録では徹夜でエントリーナンバー1番を獲得、踊り連代表「選手宣誓権」を手にいれました。

スタート位置の抽選会には好スタート位置を得ようと催事委員会長が矢作川をポン姿で渡る〝みそぎ〟を行う熱の入れよう。本番1週間前と2週間前には青年部主催の「プレおいでん」でモデル連を招き、踊りの講習会を駅前で開くなど、祭り気分の盛り上げに積極的に貢献しました。

いよいよ本番。青年部踊り連&姉連（おどれん）は全踊り連の代表で「賞詞」して開幕。ひたすら踊り、熱く燃えた2日間でした。結果は健闘賞。でも、みんなの心がひとつになった感動の夏の夜でした。

日本一のカヌーマラソン

新宮商工会議所青年部（近畿ブロック）

近畿一の大河熊野川を舞台に開催される熊野川カヌーマラソン大会。熊野の大自然を多くの人に感じてもらおう、熊野の魅力を全国へPRしようと1989年にスタート。今回で6回目を迎え、京阪神を中心に全国から437名の参加者があり、数百艇のカラフルなカヌーが熊野川とのみごとなコントラストを映し出しました。

この大会は、42キロと20キロのコースがあり、タイムを競う参加者、のんびりと川下りを楽しむカヌーイスト。皆それぞれ楽しい一日を過ごしています。このような大会が開催できるフィールドは全国的に珍しい。

大会運営には、新宮商工会議所青年部を中心としてとして熊野川青年会、熊野川町商工会、新宮青年会議所など多くの団体と熊野の自然とカヌーを愛する人達の協力によって支えられています。

日本一に成長した熊野川カヌーマラソン大会。この大会を通じ、熊野川の清流を守り、育んでいきたい。そんな気持ちを多くの人に感じて頂きたいものです。

特集　全国各地の青年部活動レポート

"明日への創造　地域に挑むYEG"

北から南から、地域で奮闘するYEGの声が届きました。友情、交流、研究…若き企業家集団のネットワークが、いま大きな広がりをみせています。変革の時代を乗り越え、21世紀に向かってYEGの挑戦は続きます。

10周年事業を終えて

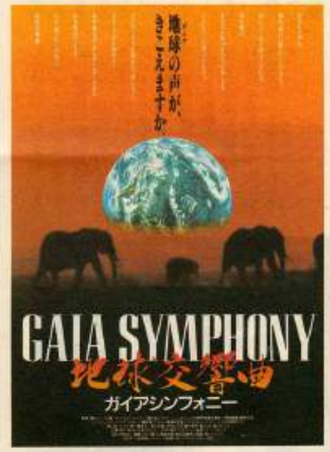
諏訪商工会議所青年部（北陸信越ブロック）

映画「ガイアシンフォニー」をどうしても諏訪の人達に観てもらいたい。この感動の映画を10周年事業の目玉にしようと決め、徳川家康の六男・松平忠輝公の311回目の命日（7月3日）に開催することができました。

1926年宮沢賢治が「世界ぜんたいが幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない」と予見した様に、地球全体が幸福を実感するためには私達一人一人が利己心を捨てる事だと基本理念にイベントテーマを"捨しゃ"としました。

"くよくよする事を止め、病気に因われたり、家や宗教に心を奪われず、生命の偉大さに目覚めよう。生命の限りを生き抜こう。地球の生命を民族の生命を文化を次の時代の走者に見事に引き継ごう。…もういいかげんで人間としての本分、良心を取り戻そう。利他の喜びに目覚めよう。自我の意識は個人から集団社会宇宙へと次第に進化する。あなたが変われば地球が変わる。"

という天の人・松平忠輝公の啓示を聞きながら、遥か将の世の光明を見るための、青年部10周年事業すべてのイベントは終わった。



「全国凧揚げ大会」

前橋商工会議所青年部　関東ブロック

青年部主催の全国凧揚げ大会が、3月7日の日曜日に盛大に行われました。

古くから日本の伝統ある遊びとして行われている凧揚げは、上州の風には最適な遊びです。この前橋で行われる事を聞いた、全国の凧の愛好家の方々から熱い期待を受けていました。

前日の前夜祭は、日本の凧の会・凧愛好家の方々約120名を迎え、前橋市長、青年部代表幹事、事務局が出席、華麗太鼓や凧の会のオークションが行われました。

利根川の流れと赤城山を背景に数百の凧が大空に舞い、敷島公園河川緑地の広場は凧を揚げる人々で一杯でした。凧作りのコーナーやトン汁のコーナーは長蛇の列で待つこと数十分。参加者の楽しそうな姿を見て、この大会を行って本当に良かったと思いました。

凧の会のスタント凧（スポーツカイト）の妙技、そして最後に行われた大凧揚げの部では、我々青年部大奮闘の手作りのダルマ絵入り大凧、群馬県観光課は〝ぐんまちゃん〟そして市制100周年のマスコット〝ふーちゃん〟の大凧、白根の二十四畳の大凧など大空に舞い揚がったときは、主催者でありながら時間を忘れて見入ってしまうほどの感動でした。

ASEANとの交流も

徳島商工会議所青年部（四国ブロック）

関西国際空港の開港や、明石海峡大橋開通予定など、徳島にも新しい時代の流れがおしよせてきています。こうした中で青年部では総務、交流、第一（県の諸政策への対応）、第二（市の諸政策への対応）、第三（工業関係）、第四（商業・金融関係）、第五（労働・調査）の七委員会で組織し事業活動を行っています。

一例として第五委員会は労働問題に取り組んでおり、本年度は(1)労働組合との懇談会、(2)外国人労働者との対話、(3)外国人労働者対策につき情報収集の3事業を一括しようと取り組んだのが「ASEAN労組代表との懇談会」でありました。

ASEANチームは、インドネシア、フィリッピン、シンガポール、マレーシア、タイの5ヶ国10名とテーブルを挟んで各国通訳付きの会議となり、和気あいあいのなかで懇談会は成功に終わり、最後に「阿波踊り」をみんなで踊り友好も深めました。

我々、徳島商工会議所青年部が何をなすべきか原点を見直し、切磋琢磨しながらパイタリティーをもって地域社会の発展に挑戦しています。

「発信！未来の米子に向けて」

米子商工会議所青年部（中国ブロック）

当青年部は「人が集う街米子」をテーマとして、街をいかに活性化するかを考え、その中で核となるコンベンションホールが是非必要ということで、継続事業として長い間、設立に向けて運動してまいりました。

そして昨年、ホールの建設も決まり、また、コンベンションビューローも県のほうで設立していただく目処が立ちました。街づくりとは、このように自分たちができればと考えております。

らよいのかという理想を描き、理想と現実の間に生じるギャップを問題提起し、その問題を一つ一つ合意形成しながら、実現に向けて努力をしていかなければ出来ません。我々が長い間課題としてきた問題も、実現のメドが立った今、これから我々が21世紀へ向けて、どんな理想を掲げどんなすばらしい絵を描くかを考える大事な時を迎えています。そして、その絵が現実になるよう、会員一人一人が一丸となって活動していきたいと考えています。

また、本年度は創立15周年を迎える年でもあり、10月に行う15周年記念事業により、より一層会員同志がつながりを深めていくことができればと考えております。

「全日本トライアスロン宮古島大会」を支える

沖縄宮古商工会議所青年部（九州ブロック）

トライアスロンは、ラテン語の数字の3という意味と、スポーツを意味するアスロンとの合成語で、水泳・自転車・マラソンの3種目を一人で連続して行い、その総合タイムを競う競技です。日本では、1981年（昭和56年）に行われた鳥取県の皆生大会が初めてのトライアスロン大会で、1985年（昭和60年）4月に、「第1回全日本トライアスロン宮古島大会」が開催され、NHKの全国放送で生中継された事を契機に、全国にトライアスロンブームが広がりました。

沖縄宮古商工会議所青年部では、第1回大会から今回の第10回大会まで、陰の力の食糧部を担当しております。食糧部の役割は、前夜祭（ワイドパーティ）後夜祭（ふれあいパーティ）の料理発注及び準備・運営・後片付けと大会当日の21カ所のエードステーション（選手の飲食物やスポンジ等の受渡し場所）の準備・配布及び大会役員・ボランティア総勢6500食の弁当の配付などです。陰で大会成功の為に頑張っている青年部であります。

これからも、地域経済発展の為、当青年部は地域の各種イベントへ積極的に参加していきたいと思います。

翔生 Communication PLAZA

平成7年2月22、23日

第12回 中央研修会を京都で開催！

女性会員だけの分科会も

いよいよ中央研修会の準備もおおづめを迎え、この案内が掲載される頃には皆様に御登録の案内をさせて頂いている予定です。一人でも多くの方にお越し頂いて皆様に満足して頂ける様、商青連研修委員会の方々と共に準備を進めております。

佐藤会長の基調講演をはじめ、地域連携軸と青年部活動の講演、パネルディスカッションではYEG活動を検証し、今後にむけての運営を予定しております。

分科会では次年度会長研修、会長役員研修、事務局研修そして女性会員研修の四つに分かれ、それぞれの専門分野の研修を行います。特に、今回の中央研修会では、今後増加が予想される女性会員をスムーズに受け入れ、現在の女性会員のリーダーシップを養成する目的で女性会員研修を行いますので、是非とも女性会員にお越し頂きたいと思います。

また、懇親会の後に御宿泊役員の方々とさらに親睦を深めて頂けるよう、あるいは同業種のネットワークづくりの場となってもらえたらと、YEGラウンジを設けます。こちらの方にもお気軽にお立ち寄り下さい。京都府商工会議所青年部連合会に協力を得まして、特産物展示も開催します。

又、エクスカーションとして早朝座禅会を行いますので、心身をリフレッシュされるために各単会の次年度会長には御出席願いますようお願いします。

日時は別表の通りです。全単会が100%の出席で中央研修会に御出席いただけるためにも主管青年部として京都も精一杯がんばりますので宜しくお願いします。

『商青連第12回中央研修会』スケジュール

	時間	研修内容
2月22日（水曜日）	11：30～12：30	中央研修会登録受付
	12：30～12：40	オープニング
	12：40～13：05	オリエンテーション
	13：05～16：30	全体研修 説明 基調講演 地域連携軸と青年部活動 休憩 パネルディスカッション
	16：30～17：00	移動（パークホテル内各室）
	17：00～18：30	分科会 次年度会長研修 会長役員研修 事務局研修 女性会員研修
	18：30～18：45	移動
	18：45～20：45	懇親会
	20：45～	二次会
23日（木曜日）	6：00～6：30	エクスカーション座禅会場移動
	6：30～8：00	座禅会（天龍寺）
	8：00～8：30	移動
	8：30～9：30	朝食（7：30～）
	9：30～10：00	オリエンテーション
	10：00～11：00	記念講演
	11：00～12：00	第22回通常会員総会 各自昼食
	13：00～	各エクスカーション

中央研修会に「おこしやす！」

全国初の女性会長

京都YEG会長　岩滝　紘美子さん

全国商工会議所青年部の皆様におかれましては益々ご清栄のことと存じます。

今年度、京都が平安建都一二〇〇年を迎えているこのおめでたき年に、会長を務めさせて頂き、光栄の至りでございます。この重責を身にしみて感じますと共に、今年度の2大事業であります「KYOの街祭り」と商青連主催の「第12回中央研修会」の主管を成功させたく思っています。特に「第12回中央研修会」は各単会の会長のみならず役員にも枠が拡がり、また女性会員の研修も行います。

日本全国の青年部のより多くの役員様方に京都におこし頂き、京都らしい心のこもった温かみある中央研修会になります様に京都のメンバー一同、力の限り頑張って参ります。改めて今年度京都において中央研修会を開催して頂きますことを心より感謝すると共に、全国商工会議所青年部の皆様に心より御礼申し上げます。

今年度の京都の青年部のテーマは「新たなる21世紀への勇気ある挑戦」と致しました。大きい理想とより早い情報収集、美陸に勝ちぬく強い人脈、そして常に助け合いながら心の大きい人間になるよう、また青年の体力と情熱と勇気をもって積極的に躍進して行きたいという想いです。

私はいつも与えられた生命と日々の生活を、充実させ悔のないように生きたいと思って居ります。そして一番大切な要素をあたたかな心が、一番の起爆剤となって今日も明日も頑張り続けて生きていけるのだと信じています。

講演会場に熱気と感動

商青連YEGセミナー

平成六年度YEGセミナーを国際会議場（東京商工会議所ビル）にて7月27日に開催いたしました。

小谷直研修委員長による開会に始まり、佐藤義三郎会長の挨拶に続き日本商工会議所・西川敏一常務理事にご挨拶をいただきました。本年度のYEGセミナーは3名の講師の方々にご講演をお願いしました。

第1講演は朝日ソーラー株式会社 代表取締役・林武志氏に「不況脱出の決め手は攻めの経営・朝日ソーラーの戦略」をテーマに資本金ゼロからのスタートにもかかわらず、創業わずか10年で太陽熱温水器の全国シェア50%を達成する営業戦略と強烈な個性とリーダーシップを持った経営戦略についてご講演いただきました。

第2講演は株式会社ウーマンウェーブ代表取締役・藤井清美氏に「女性を活かす企業は発展する」をテーマに、いま女性の時代とされる要因とは何か、女性を企業で生かす戦略についてユーモアを随所に交えながらご講演いただきました。

第3講演は日本BB研究所所長・行徳哲男氏に「野性のエネルギーを取り戻せ」をテーマに「感動を他人に与えられる者が経営者としての資質である」と感性に響くご講演でした。

講演会終了後、夕陽せまる会議室を展望しながら東京スカイルームにおいて講師を囲み懇親会を催しました。

最後に全国各地よりご参加いただきました青年部の皆様に深く感謝いたします。

（研修委員会・本田幸明）

翔生 Communication PLAZA

「国土軸・地域連携事業キャラバン」連携図り4ルートを策定

私たち東北六県商工会議所青年部連合会では、「国土軸・地域連携軸推進事業」を展開し、これまでの「対・東京」の視点を転換、地方都市間の経済、文化交流ネットワークづくりを促す狙いで、太平洋側と日本海側の国土軸を結ぶ四つのルートを設定しました。

四ルートは、①北東物流Aライン、②北緯40度Bライン、③東北ウエストライン、④磐越SeaSeaラインで、それぞれの都市が道路、鉄道など、どのような手段で結ばれているかを点検しました。

そして今回東北6県連の41青年部は、地域の仲間と若い行動力を結集して、地域の都市間競争から鋳造都市との産業、歴史、文化、自然面での交流を中心として地域活性化に向けた活動をすべきと考え、自らの地域資源の発見や地域との連携目的として、10月4、5日に、キーワードをもってキャラバン隊を組み各ルートを一斉に横断して歩りました。

キャラバンをしながら各地域を訪問してその理解を深めて戴きました。そして、どのような交流が可能か、さらに交流を展開するにはどんなインフラ整備が必要かなど探ることができた。

（古川YEG　吉田駿一）

商青連の組織を改革

ブロック代表理事を新設

商青連では、平成7年4月より組織改革を行います。商青連の組織が大きくなり、新しい時代に対応するために役員会の機能をさらに強化しました。

主な内容は次の通りです。

会員については従来通りですが、副会長は現行10名を4名としました。運出方法はブロック内（3ブロック）で互選していたのを、会員が理事の中から指名します。東部（北海道、東北、関東）中部（北陸信越、東海、近畿）西部（中国、四国、九州）からそれぞれ1名、それに次年度会長予定者です。

副会長は、これまでブロックを担当し、さらに委員会の委員長を兼務していましたが、既に業務の質量とも限界に達していました。

この4名の副会長は会長の補佐役に専立します。

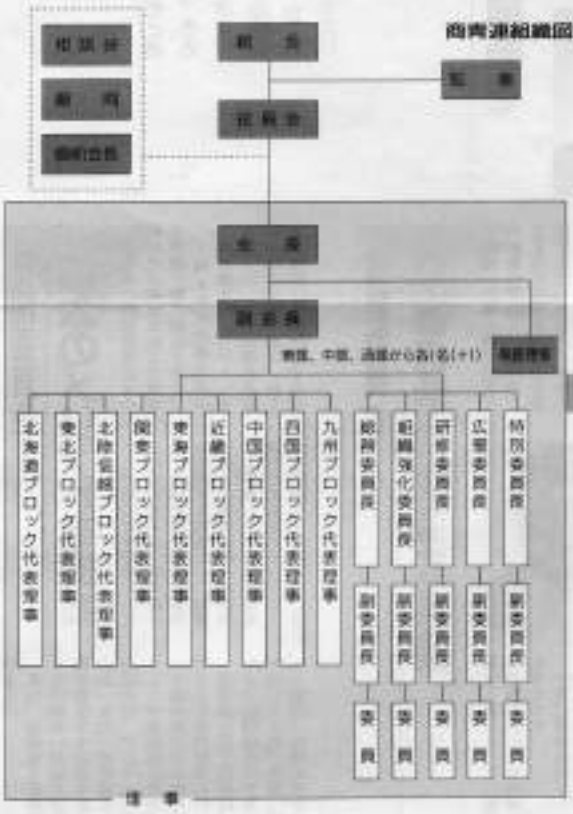
新たに設置されたのが、「ブロック代表理事」です。全国の9ブロックで選出し、副会長や委員長を兼務しません。

ブロック代表理事の役割は、定期的に①ブロック別青年部会長会議②ブロック内商青連役員会議③ブロック内県連会長会議を開催し、県連の意見を吸収し、商青連事業に反映させることです。

ブロック内の情報交換や連携を強化し県連活動の一層の活性化を目指そうというものです。

また、従来通り委員会には委員長をおき、重要事項を審議してまいります。

（専務理事・筑増良平）



YEGグッズについて教えてください。

Q YEGグッズには、どんな物があります か？

A 日商の調査報告書によると、ジャンパー、Tシャツ等の衣類が多く、変わったところでは、オルゴールや人形もあるようです。61単会が製作しています。

Q YEGグッズを作る時の、層出は必要ですか？

A 基本的には、単会の所属する商工会議所の承諾があればいいと考えます。但し、バッヂについては、正式な全国統一バッヂがありますから、公式な場では認められていませんし、他の団体の方が見た時に間違えるという心配があります。

Q YEGグッズの製作目的で、参考になるものがありますか？

A 平成6年度に四国ブロックが、商青連100%加入達成記念のネクタイピンを一個千円で販売し、六百個売って20万円強の収益を得た例は、無理のない価格で良い例だと思います。また、単会の意識統一や、メンバーが楽しむ目的であれば、良い事だと思います。

Q 個単会のYEGグッズを全て知っておきたいのですが？

A 全部の写真はありませんが、日商の中小企業振興部小規模事業課にリストがありますので、参考にして下さい。

総務委員長　竹内　豊

しょうせいれん ねっとわーく

商青連は、設立以来、組織の強化と活動の活性化をめざしてきました。その商青連も、変革の時を迎えています。山積された課題に全国各地から出向しているメンバーが懸命に取り組んでいます。各委員会の奮闘ぶりをお伝えします。

特別委員会
加入のメリットを提案

商青連の特別委員会はその時代の変化に応じて重要な課題に取り組んできた。平成6年度佐藤会長は「商青連加入メリット」をテーマとして特別委員会設置をとの指示である。私たち青年部は経済団体であることが他の青年団体との大きな違いである。青年部として地域経済活性化の事業を実施するにあたり、[illegible]年部との事業に較べ運営方法と収集したい情報を青年部として全国のネットワークを利用して対応する必要がある。

また、企業家・起業家としての持ちたい情報や交換の場を提供する必要もある。この一年間、商青連として全国大会、ブロック大会、そして中央研修会等のメリットを会員にどの様に提供できるかを検討をしたい。

商青連も設立12年目、これまで組織強化に大きな力を注いできた。今後「明日への創造、地域に挑むYEG」のスローガンのもと経済団体としての役割を忘れず委員会活動をしたい。

（委員長・[illegible]）

広報委員会
情報ネットワークの構築を

全国400有余、会員数3万人の組織になろうとしている商青連、各地で地域の中核になろうという青年経済人たちのネットワークをどのように構築してゆけばよいのか―広報委員会に寄せられる期待と責務は非常に大きいものがあります。

年に3回発行する「翔王」、全国の青年部の動きを伝える「情報パック」それに単会で発行する会報のコンクールなどで、ほとんど1年間が終わってしまいます。

広報委員会の至上命令は、商青連の活動や方向性を全会員に知っていただくという仕事は何よりも大切なことです。

しかし今後は、経済や行政関係機関、他の青年団体など対外的にもっと情報発信をしていかなくてはなりません。さらに全国のYEGが相互にビジネスの情報交換ができるようなネットワークの構築が急がれます。一歩ずつ前進していかなければと考えます。

（委員長・宮 正弘）

総務委員会
県連の活動調査を実施

現在の社会は歴史的変化が急激に現れている時代で、YEGにも商工会の能力を発揮するという改革が求められている。

例えば、約3万人の会員が必要に応じて自由に交流できる体制、また商工会議所の運営に理想な活力を与え、本来の研修や意義をより充実した活動にする改革である。

本年、総務委員会では、単会から全国組織までの流れの要になる、県連の調査を行った。各県連の状況を把握し、あるべき姿を模索する事によって、組織全体の噛み合わせを円滑にすると考えてです。

一方、親会のパソコンネットワークを使って多くの会員相互が、目的を持った会話ができないかを検討しております。これは、当初メニューが限定されますが、年と共に幅広いニーズに応えられます。

その他、中央研修会主管の正副連合会の選定基準、各ブロック大会の共通内容検討等、佐藤青三郎会長からのご指示を精一杯具体化して、職責を果たしたいと思います。

（委員長・竹内 豊）

研修委員会
交流と連携がキーワード

本年度の研修委員会のテーマは「交流と研修」。商青連加入のメリットは、会員にとっては、個人の交流、遠くの同業種交流により貴重な情報を入手し、広い範囲でのビジネス交流を通して、技術的な解決や、販路の拡大をはかることも可能。

もう一つは単会相互の交流。都域は、都市部と農村部、機能を分担しながら、共に発展していく時代に。「オラが村さえ良ければ」という時代は終わった。

地域が連携していくためには、どうしても中核中枢都市に青年部が必要で、中核都市の青年部はビジネス交流にも不可欠。

7月のYEGセミナーでは経営研修を実施した。2月の中央研修会では、同業種交流と地域連携をテーマに研修する。もちろん中核中枢都市への青年部設置も。女性経営研修と[illegible]女性経営者の講演が好評。多数のご参加を。

（委員長・小林 宏）

組織強化委員会
組織強化は永遠のテーマ

商工会議所活動の一翼を担う各地青年部。従って、商青連として組織の拡充と強化は、組織が存続する限り、永遠に重要な課題であり、永遠のテーマと言えよう。

1年間の委員会活動では多くの課題がある中でひとつずつ行動ベースで実現しなければ意味がない。商青連で出来ることは少ない。ついては、本年度事業計画の第1番に掲げられた組織強化について佐藤青三郎会長に伺い、その意向を尊重した組織強化の活動を展開中である。

①ブロック運営研究会の統一テーマ「おこそう行動YEG」を決め「ブロック大会」へ名称変更し同時ブロック（連合）責任者への大会出席、[illegible]等の要請により青年部の認知、地位の向上を計る。

②400青年部設置目標、加入強化、及び県連設置の推進。

③全国協議会、東京都の組織強化を検討実施する。各地区、各委員会と連携し、実現に向け努めたい。

（委員長・小泉光一郎）

EDITER

北は北海道から、南は沖縄まで。YEGの仲間3万9000人に「翔王」をお届けします。今後ともよろしくお願いいたします。
宮 正弘（県商）

「友、遠方より来る また楽しからずや」。YEGのネットワークが大きく広がることを夢に見て…。
本田良一（奈良）

初めての出向で、宮、本田正副委員長のもと、翔王の編集に奔走で右往左往しております。ブロック大会、地域連携と、次回もYEG情報をお届けします。
吉田順一（古川）

初めての商青連への出向でしたが、関東ブロック内の単会紹介、ブロック大会の報告をお届けできました。次号も頑張ります。
西堀伸一（桐生）

出向・広報（委）ともはじめてとあって宮委員長・本田副委員長に頼りっぱなし。商青連のメンバーは熱意あるの情報交流だけで、[illegible]はなかなか出てこない。
佐賀公一（出雲）

私の担当の西国・九州地区の方には度々の原稿依頼の電話で、お騒がせいたしました。「翔王」発行に携われたことは至上の喜びです。
佐藤文男（鹿島）

―広報委員会より